

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

August 2019 vol.64

August						
S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

◆伊勢湾台風殉難之碑

所在地：海部郡飛島村新政成

交通：伊勢湾岸自動車道「飛島」IC 北西約3km

伊勢湾の最北部に面し、日光川と筏川に挟まれた人口4,500人の飛島村は、面積22.53km²の小さな村で、村域の平均海拔はマイナス1.5m、臨海部の埋立地を除き、そのほとんどが海拔ゼロメートル地帯となっています。江戸時代に干拓が進んだ北部では、米や麦、野菜、花卉などの栽培が盛んに行われる一方、高度成長期に埋め立てが進んだ南部は、名古屋港の一部としてコンテナふ頭が整備され、鉄鋼、航空機産業などの工場のほか、火力発電所も立地し、村の昼間人口は夜間人口の約3倍の13,000人に上っています。

この南部に集積した事業所からの潤沢な税収により、村の財政力指数は2.15で全国でダントツの1位（2位は福島県大熊町で1.76、2017年度）となっています。希望する中学2年生を対象とした村費による海外派遣事業をはじめ、18歳まで無料の医療費、子どもや高齢者の節目での祝い金など、手厚い村民サービスは有名です。

現在ではこのように裕福な飛島村ですが、つい数十年前は極めて厳しい財政状況でした。伊勢湾台風で大きな被害を受け税収が落ち込み、また災害復旧に多額の費用を要した1960年の村の財政力指数は0.22（財政再建団体となった夕張市の財政力指数は0.20前後）で、村の財政は危機的状況に陥っていたのです。

伊勢湾台風では、飛島村を含む海部地域においても高潮により海岸堤防がことごとく破壊され、海拔ゼロメートル

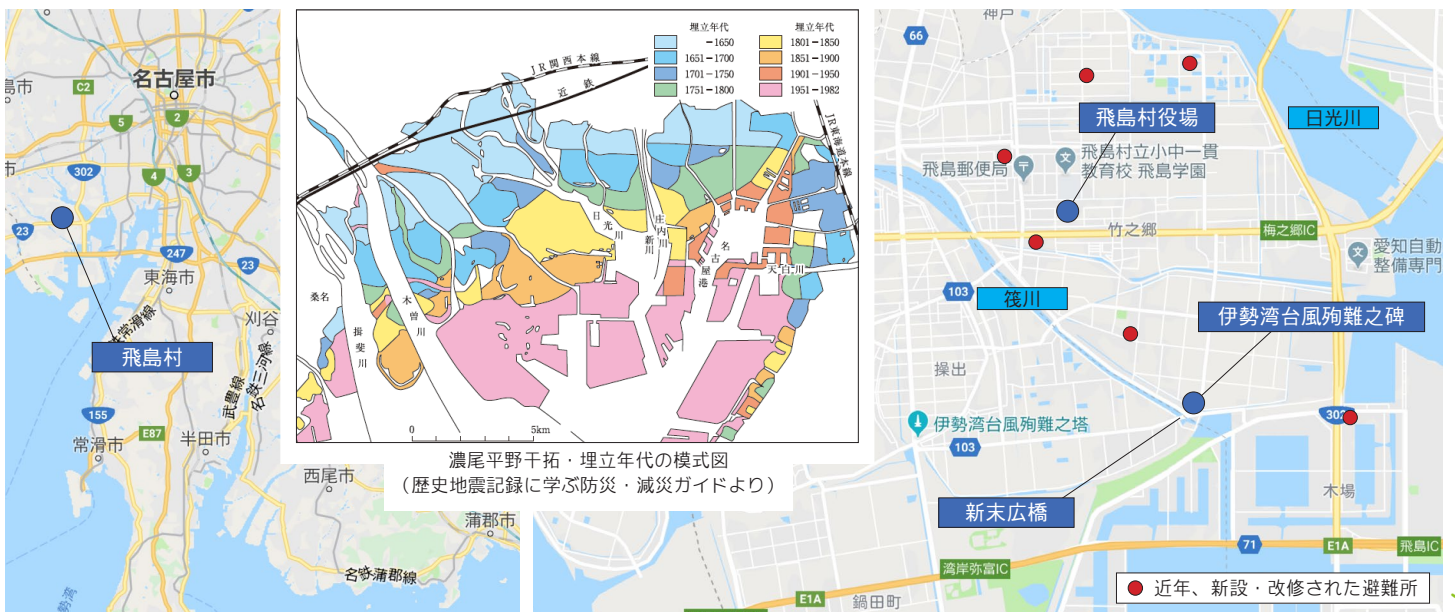
地帯は大規模な浸水に見舞われました。飛島村では132名の尊い命が失われ、流失、全壊、半壊となった住宅は722戸に及び、農地も大規模に冠水するなど、甚大な被害が発生しています。村長は国・県へ対策を懇願しますが、貧しい村の状況から復旧作業は後回しとされます。結局、3か月近く湛水した状態のままとなった飛島村では、集団避難していた児童生徒が帰村できたのは、12月20日頃でした。

飛島村の転機は1971年12月、臨海部の埋立地「西部臨海工業地帯」の2区と4区が村に編入されたことです。これによって、村の税収は3.6倍に増え、やがて財政力指数が2を超える裕福な村となりました。現在では、南海トラフ地震による津波などから命を守るための避難所が各所に建設されるなど、防災対策も充実しています。

新政成地区の南端、筏川にかかる新末広橋の東詰に、伊勢湾台風による132名の犠牲者の霊を弔う伊勢湾台風殉難之碑が建立されています。碑は黒川巴喜（黒川紀章の父）の設計によるもので、正面右手の高さ6mの白色の塔に「伊勢湾台風殉難之碑」と刻まれ、隣接する幅6mの赤茶色の壁面に碑文があります。碑文には、台風の状況、飛島村の被害、台風当日の様子などが記され、犠牲者への慰霊の念と全国からの救護に対する感謝、教訓として後世に語り継ぐ思いが述べられています。



伊勢湾台風殉難之碑
(kasen.net HPより)



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆伊勢湾台風殉難之碑の周辺には…

● 善光寺

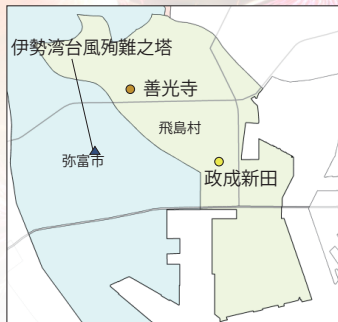
所在地：海部郡飛島村元起

交通：飛島公共交通バス「善光寺前」停北西約150m

当初は瓦葺のお寺でしたが、台風災害や、昭和19（1944）年昭和東南海地震で倒れるなどの被害を受けたことから、昭和46（1971）年に4本柱を替え、屋根を銅版に葺替え今日に至っています。



から、昭和46（1971）年に4本柱を替え、屋根を銅版に葺替え今日に至っています。



● 伊勢湾台風殉難之塔

所在地：弥富市西末広町

交通：弥富市コミュニティバス「西末広」駅西約800m

弥富市にある伊勢湾台風殉難之塔は、犠牲者の慰霊と、全国からの救援への感謝の意を込めたもので、頂上に青銅製観音像が安置され、両側に明像（母親が流木の間から愛児を抱き上げ頬ずりして喜ぶ像）と暗像（父親が、青年に成長した変わり果てたわが子を自衛隊員の助けを得て収容している像）が彫塑されています。



● 政成新田

所在地：海部郡飛島村木場 交通：近鉄名古屋線「近鉄蟹江」駅南約8km

政成新田は文政9（1826）年、当時の庄屋役であった大河内庄兵衛が自費をもって開墾したのが始まりです。文政年間（1818～1830）に開墾が成りますが、嘉永7（1854）年安政東海・南海地震によって海岸堤防が破損し、翌年には洪水が起こり堤防はほぼ流されてしまいました。これは翌年再墾されましたが、その後も水害との戦いを繰り返しています。

◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 飛島村夏まつり

毎年8月の第一土曜日（令和元年は8月3日）に、飛島村の南部運動場（旧飛島中学校運動場）で飛島村夏まつりが開催されます。

まつりには飛島村キャラクター・とびしマンも登場し、神楽太鼓の演奏に始まり、盆踊り（飛島音頭は三波春夫作曲）やお楽しみ抽選会が行われます。抽選会の商品には、飛島村ならではの豪華賞品（過去にはハイビジョンテレビなど）が用意されています。



飛島村 HP より

あいちの農産物

ねぎには血行改善や体を温める働き、痛みを和らげる働きのある成分が含まれており、生活習慣病を抑制する効能や殺菌作用があるとされています。関東では白い部分を食べる根深ねぎが、関西では緑色の葉の部分を食べる葉ねぎが主流ですが、近年は好みの差もなくなりつつあります。



愛知県園芸農産課 HP より

愛知県では、江戸時代に津島市越津地区で栽培が始まった「越津ねぎ」が冬期を中心に出荷されていましたが、品種改良により現在では年中出荷されるようになっており、夏ねぎは飛島村の特産物になっています。

● ブレイクタイム ●

♪ 飛島村ミステリー

飛島村ミステリーは、村の魅力をミステリー風にPRする漫画で、村の「魅力創造プロジェクト」によって作成されました。内容は、ミステリー好きな少年と少女が村を舞台に5つの謎に迫っていくもので、村の干拓事業を主導した江戸時代の武士や、コンテナを積み下ろすクレーンの姿をした動物など、村にゆかりのキャラクターがミステリーを出題し、謎を解くと飛島村の魅力を知ることができる、という構成になっています。冊子は村の公共施設において無料で配布されています。



◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 令和元年8月）